

テーブルの下の世界

多田正治アトリエ (多田正治 + 阿部彩音)

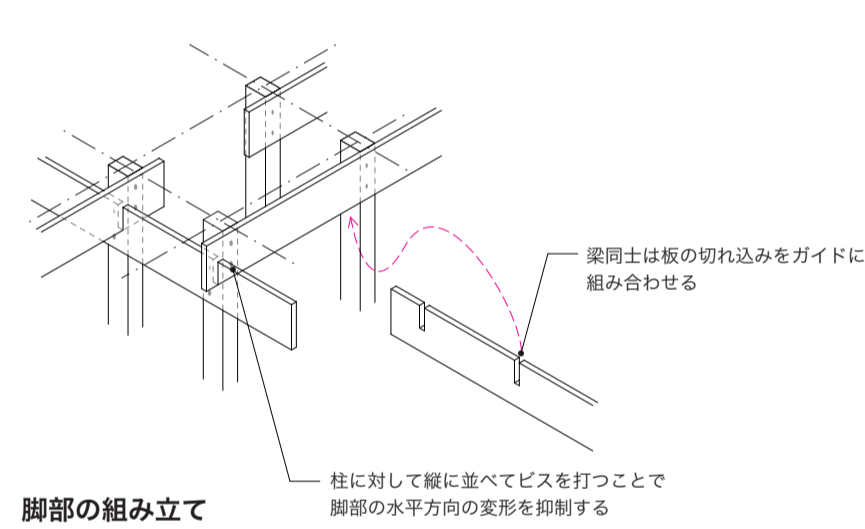
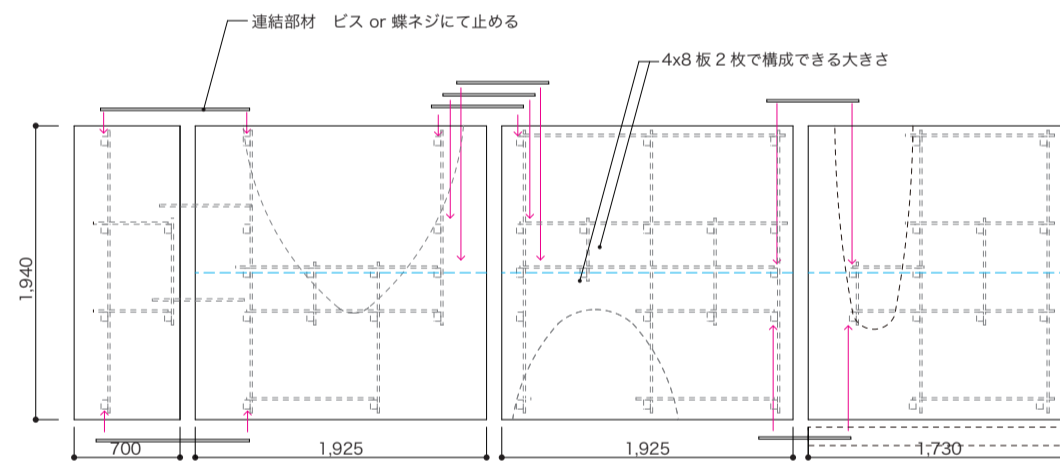
夕暮れ時、母は忙しそうに食事の支度をしている。食卓の上には家族の人数分の食器を並び始めている。間もなく食事の時間。小学生に上がる前の私は、テーブルの下にもぐりこんでいる。お気に入りの絵本を読んだり、ぬいぐるみ達ともう一つの食卓を囲んだり、おもちゃの鉄道や自動車でミニチュアの都市をつくっている。

食卓の上と下では、1枚の天板を隔てて、まったく異なる時間と空間が広がっている。それと同時の時間・空間を再現してみようと思う。

「何をしているの？」母がテーブルクロスをつまみあげ、遊びに夢中になっている私の顔を覗き込む。



「テーブルの下の世界」の構成・作り方



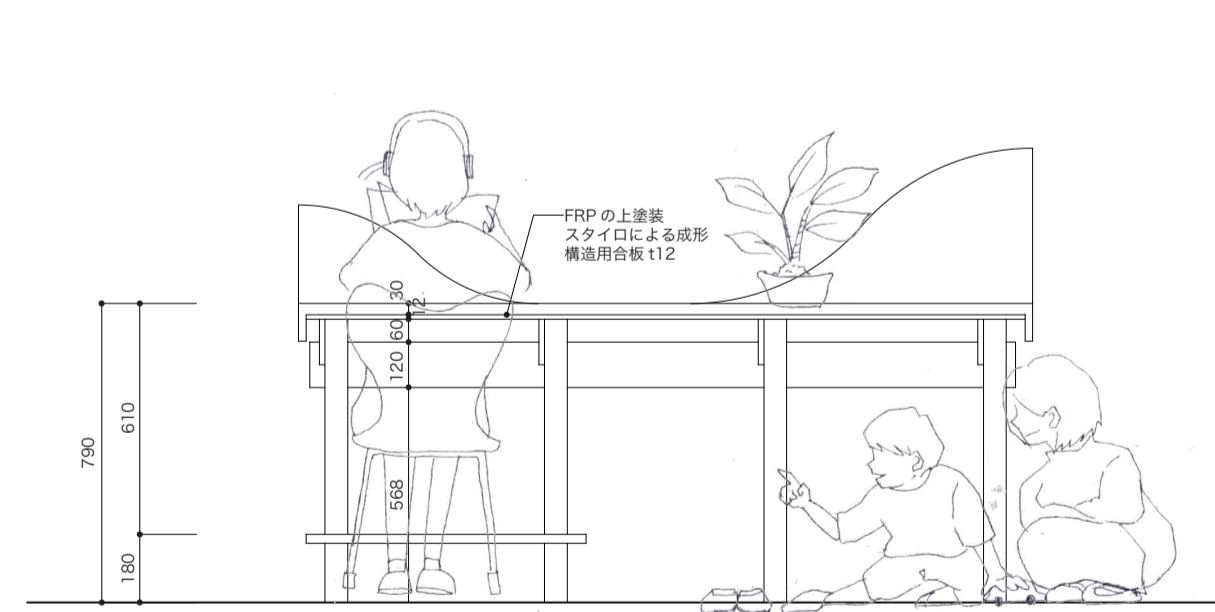
テーブルの分割

脚部の組み立て

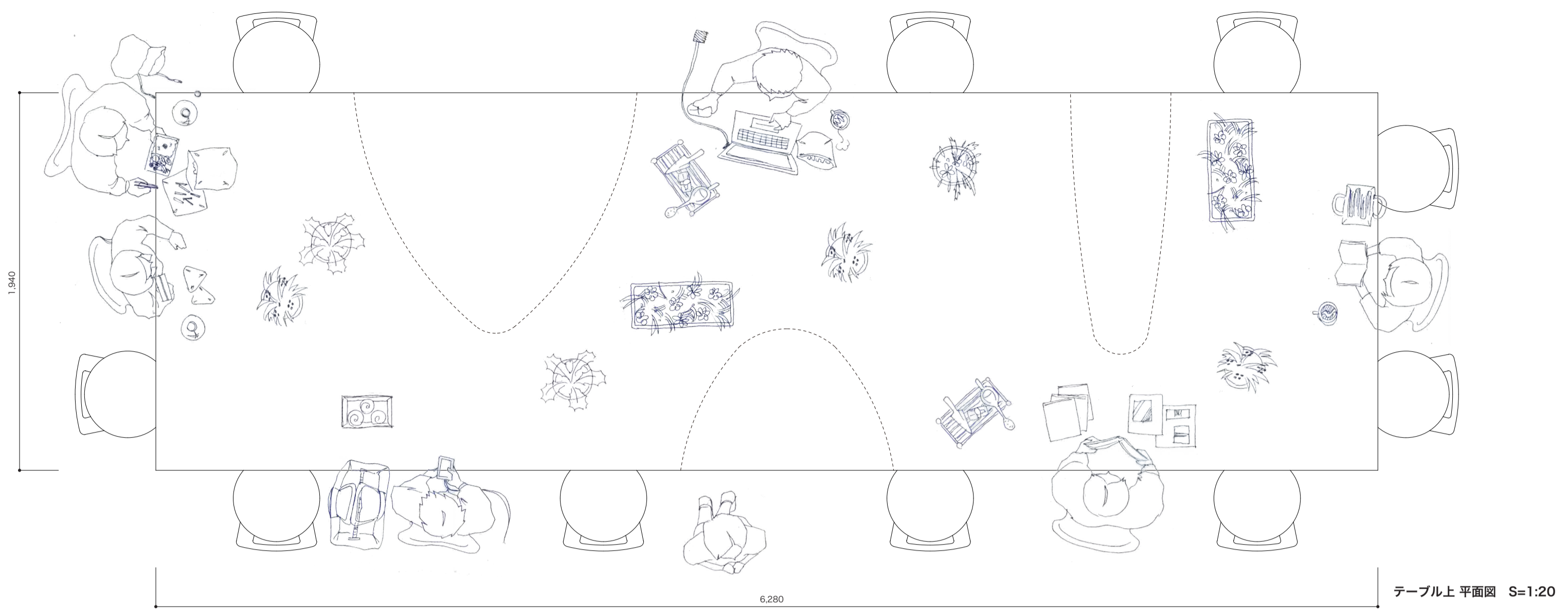
6280mm x 1940mm の大きなテーブルは 4 つに分割して運搬、設置、保管をします。天板と脚部も分離します。4 つのテーブルの連結は、ビスあるいは蝶ネジなどで行います。

テーブルの天板は厚み 12mm の構造用合板を基材とします。各テーブルとも 4x8 (シハチ) 板 2 枚、あるいは 1 枚で構成されます。構造用合板の上にスタイロ、FRP でめくれる造形を成形します。

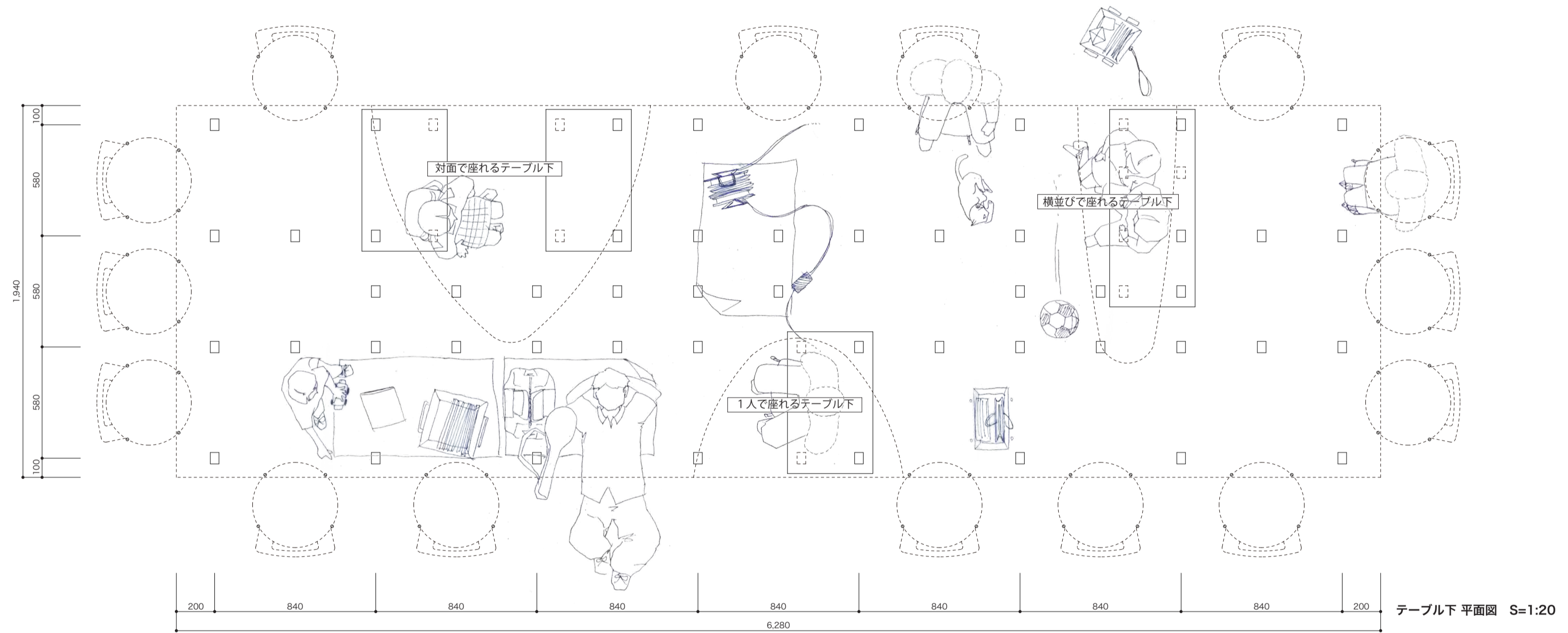
分割のサイズ、組立ての方法などは、設置条件や運搬方法に応じて 変更します。



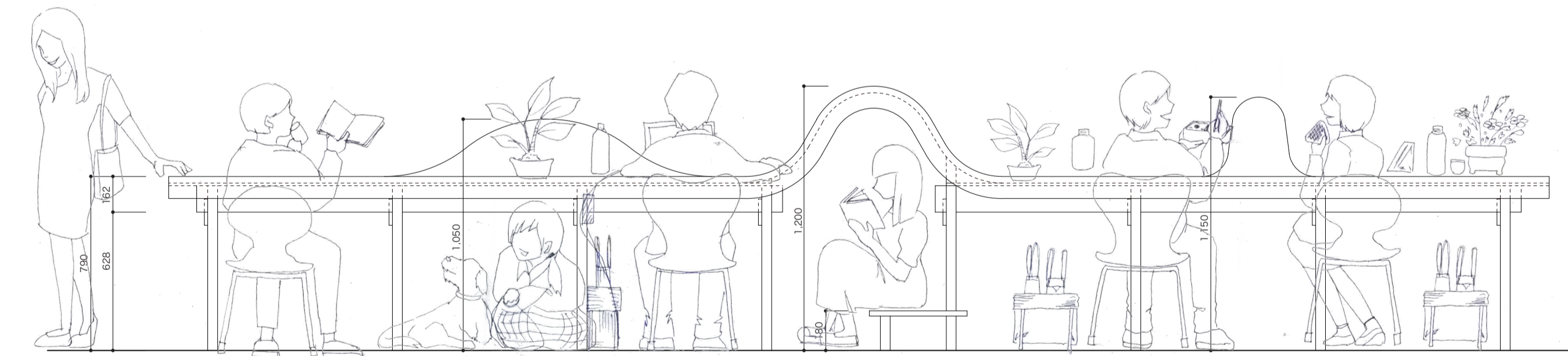
断面図 S=1:20



テーブル上 平面図 S=1:20



テーブル下 平面図 S=1:20



立面図 S=1:20

《過去の作品》

いるんな人が集ってきて、それぞれで自分の時間をそこで過ごす。私たちはそんな作品を過去に設計・製作してきました。そのうちのいくつかをご紹介します。

神川町の水平面 (2018)

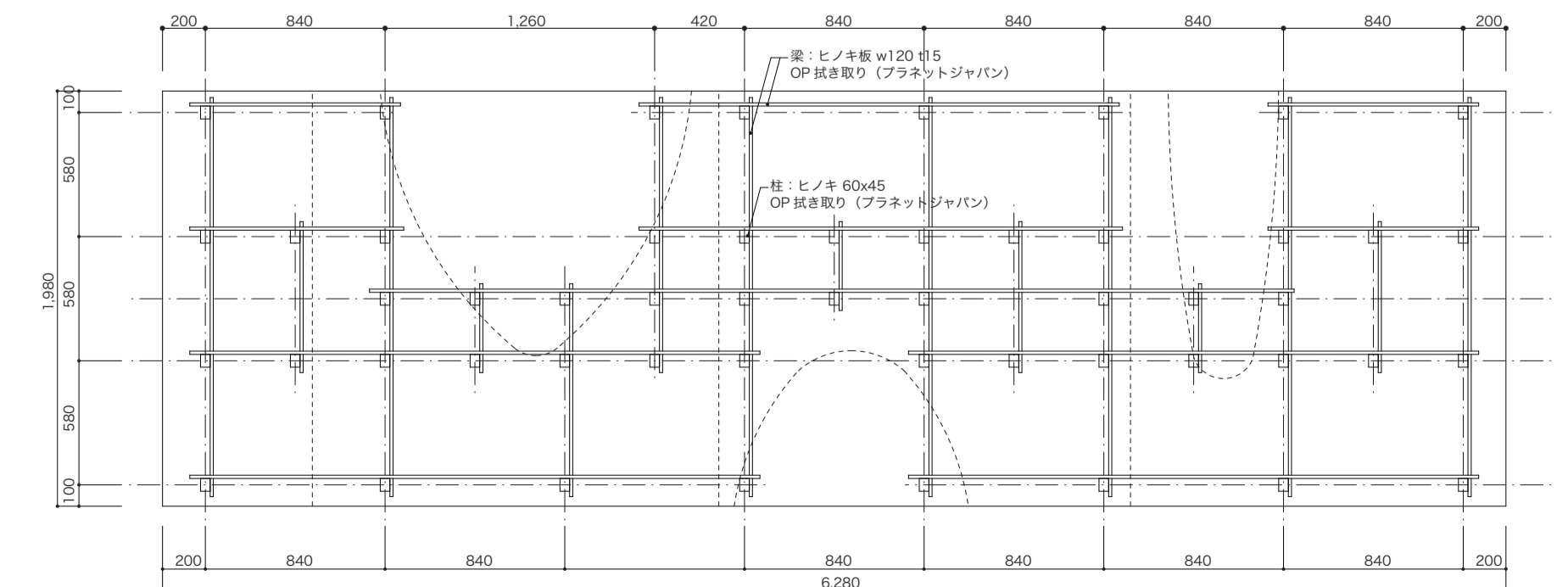


木造中学校校舎内につくった「水平面」。座卓やイス、本棚、舞台として、訪れた人が自由に使える。

おいしいパーク (2022)



私設の公園+畑+本箱。個人所有の畑を公共空間として開いていく試み



脚部・梁伏図 S=1:30